京都府流域下水道事業経営審議会第８回投資部会（開催結果）
（いろは呑龍トンネル事業再評価）

１　日　　時　令和８年 10 月 21 日（水）午前 10 時 00 分から 11 時 10 分まで

２　場　　所　京都ガーデンパレス　２階　鞍馬の間

３　出 席 者　委　員　田中委員(部会長)、岩崎委員、川池委員、西垣委員、藤木委員

京都府　西岡建設交通部技監、石塚建設交通部公営企業管理監、
高橋流域下水道事務所長、荒木公営企業経営課長、
長谷川下水道政策課長、谷山下水道政策課参事　他

４　議　　題

①　「部会長の選出」について

②　「いろは呑龍トンネル事業の再評価」及び「投資計画の検証」について

５　結 果 概 要

①　「部会長の選出」について

委員の推薦により、田中委員を部会長に選出。

②　「いろは呑龍トンネル事業の再評価」について

完了年度及び事業費を変更（完了年度：令和９年度→令和 11 年度、事業費：約 535 億円→約 570 億円）する事業計画について、事業の必要性は高く、変更後も事業の効率性が確保されていることなどから、「事業を継続する」とした事務局原案に対して、妥当であると意見集約された。

③　「投資計画の検証」について

いろは呑龍トンネル事業の事業計画の変更に伴う全体の投資計画への影響は、許容できることを確認いただいた。

６　主 な 意 見

- 近年、大規模な水害が発生していることから、水害対策のインフラはこれまで以上に重要性が高まっている。事業の効率性についても B/C の数値以上に効果があると思われる。
- 今後、都市開発が想定以上に進んだ際に、開発事業者による貯留池等の整備や本事業で対応できる限界について、働きかけていく必要があるのではないか。
- 雨水対策施設があることで逆に地域住民の危機意識が薄れることがないよう、ハード対策の PR に合わせて、ソフト対策にも取り組んで欲しい。
- 投資額の平準化により、投資計画への影響は緩和されていると思うが、引き続き、コストマネジメントに努めて欲しい。